

平成 24 年度 第 1 回 円卓会議運営委員会 議事録

日時	2012 年 4 月 25 日 (水) 18:15～20:30	
場所	県庁北新館 4-C 会議室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	伊吹 美賀子	琵琶湖流域ネットワーク委員会
	川端 隆弘	財団法人 淡海環境保全財団
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穰の郷
	小林 泉	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	関 慎介	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	中野 隆弘	びわ湖エコアイデア倶楽部
	野田 晃弘	NPO 法人 蒲生野考現倶楽部
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	三和 伸彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課

※今回欠席：堀彰男(滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会)、村上悟(NPO 法人 碧いびわ湖)、山口美知子(滋賀県地方自治研究センター)、渡辺維子(公益社団法人 滋賀県環境保全協会)

1. 第 1 回マザーレイクフォーラム円卓会議の振り返りについて

3 月 25 日 (日) に開催された第 1 回マザーレイクフォーラム円卓会議について成果や課題などを振り返り、参加者から以下のような意見が出された。

(1) よかったところ

- ・ 旗やフリップを使ったやりとりにより、議論に参加した実感を持つことができた。
- ・ グループ 2 では人数が 25 人程度であり、グループワークを行う人数としてはちょうどよかった。
- ・ グループ 3 ではふなずしの生産者が参加者に入っていたこともあり、多様な意見が出された。

(2) 課題

- ・ グループ討論・全体討論がそれぞれ 60 分というのは短く感じた。グループ討論なしに、全体討論で 3 つのテーマを扱ってもよかったかもしれない。
- ・ 「ふなずし」というテーマは環境・社会との関わりが多様であるがゆえに、議論の焦点が定まらないという課題もあった。題材がある意味良すぎた。
- ・ グループ 1 では 4,50 人の参加者があり人数が多く、参加者からの意見を十分に聞き出すことが難しかったこともあり、議論をまとめきれなかった。
- ・ 第 1 部 (山崎亮さんの講演・知事との対談) とのつながりが見えず、参加者が第 2 部に入って激減した (200 人→100 人)。
- ・ 最後のまとめについて、多くの意見を包含する提言にまとめたため、内容が抽象的になってしまった。
- ・ 時間的制約があり、枠組みにはめられているという印象を強く持った。より創発的なものを期待したい。(シナリオ研究会からの意見)

(3) 今後のフォーラム開催にあたっての論点

- ・ フォーラムの最後に何らかの「提言」を出すところまで持っていかどうか。参加者による課題の

共有だけでもよいかもしれない。

- ▶ 「マザーレイク 21 計画の評価提言」というのは、本来の円卓会議の役割として位置づけられている。（シナリオ研究会からの意見）
- ・ グループ討論から全体討論につなげたり、2 部構成にしたりするという今回の形式を踏襲するかどうか。
- ・ 滋賀県他課や市町が実施している他のフォーラム等との連携をどうするか。円卓会議を1日で完結させるのではなく、年間を通じた多様なフォーラムにより目標を達成するという考え方でもよいのではないか。（シナリオ研究会からの意見）
- ・ 出された提言（今回の取組み TOP5）を滋賀県等がどのように受け止めるのか、また施策などにどう活かしていくのか。
 - ▶ 今回の結果は、少なくとも滋賀県の環境審議会では報告される。フォローアップも求められるだろう。
 - ▶ TOP5 の内容は、マザーレイク 21 計画（第 2 期）の中にすでに記載されている。
 - ▶ 順位も重要な情報である。
- ・ テーマは毎回新しいものを設定するのか、それともある程度連続性を持ったものにするのか。
- ・ 運営委員会メンバーを現在のまま固定するのか、それともより間口を広げて開かれたものにするのか（現に関心を持ってきている人が複数人存在する）。
- ・ 円卓会議はより広く一般の人に参加してもらおう形を目指すのか、あるいはすでに取組みを行っている人に集まってもらう形とするのか。これにより広報や内容が大きく変わってくる。
 - ▶ 参加者の関心に応じて参加形態を選べないか。（シナリオ研究会からの意見）

2. マザーレイクフォーラム円卓会議や運営委員会のあり方について

マザーレイクフォーラム円卓会議や運営委員会のあり方について議論を行い、概ね以下のような方向で進めていくことで合意された。

- ① 円卓会議では、PDCA のうち「Check」と「Action に向けた方向性の提言」を行う。
- ② 円卓会議のテーマとしては、前回の議論をより具体的に検討するものと、今後新たに必要となる方向性に関するものの 2 種類を扱う。
- ③ 円卓会議では琵琶湖の総合保全に向けた大きな目標を掲げ、各地・各分野のフォーラムではその目標を共有して議論を進めていく。

その他関連して、以下のような意見も提示された。

- ・ 今回の提言（TOP5）は、具体的な取り組みの内容というよりは、課題を裏返したような内容のものであった（その意味で課題の共有である）。
- ・ 地域のフォーラムとの連携方法の例としては、夏に実施される円卓会議で出された提言を受けて、2 月に実施されるこなん水環境フォーラムで関連した交流・議論を行い、アンケート等で提示された新たな提案を円卓会議にフィードバックするといった方法が考えられる。
- ・ 2000 年ごろまでは「流域一体となって（みんなで）琵琶湖を守っていく」、マザーレイク計画第 1 期期間中（2000~2010 年ごろ）は「各流域の（それぞれの）取組みが結果として琵琶湖の保全につながっていく」、第 2 期期間中（2010 年～）は「個々人（ひとりひとり）の取組みが結果として琵琶湖の保全につながっていく」というように、取組みの方向性が変化してきたのではないか。
- ・ 取組みはすでに多くのところで実施されている。今必要なのは、目標をしっかりと掲げることではないか。

3. その他

(1) まなびワとのジョイントについて

- ・ 「びわ湖学びの場推進協議会（まなびワ）」の設立キックオフ会をマザーレイクフォーラムと連携して実施する提案があった。交通事業者や観光協会などが関わっているため、うまく連携・案内してもらえればフォーラムの参加者増加や多様な主体参加につながる可能性がある。
- ・ 地産地消イベントとの連携なども含め、今後検討していく。

(2) 運営委員会等の予定について

- ・ 9月上旬に次回フォーラム・円卓会議を実施すると考えれば、6月には会場を予約し、7月には広報を行っていく必要がある。その間、4~8月まで概ね1ヶ月に1回のペースで運営委員会を開催していく。
- ・ 次回5月の運営委員会の議題は、「円卓会議のテーマ」「円卓会議として掲げる目標」「他のフォーラムとのつながり」などが中心となる。6月以降、日程や会場、プログラムについての議論を行っていく。
- ・ 他のフォーラムや市町との連携、指標の整理、学術フォーラムとの関係などについては、並行して県が中心となり検討を進めていく。

課題

- 60分 → 短く感じる
- 全体討論でテーマ良かった?
- 40-50人
ファシリ → 佳5 定まらぬ
題材が良かった
- 人数多かった. まとめきれず(200人 → 100人)
- オ1部の内容との 乖離 (200人 → 100人)
- 最後のまとめが ~~雑~~ 抽象的
- 提言まで 持っていくか否か?
誰に? 誰に?
- 「提案」 → 「課題の裏返し」
TOP5 にすぎない
- ではなく「取組み」

何らかのアウトプット出す
・円卓会ぎに連続性もたせる

良かったところ

25人くらい

- 人数的にはちよど (7グループ)
- フリック使ったやつとリッパを使った実感
- まんべんなく意見出た (73)

フォーラム等の今後のあり方

- PDCAの「C」をもと出しては?
例: オ1位のものどうなすか?
- 「Check」と「提言」のセット?
- C+A を円卓会ぎで実施
- 「課題」があれば 提案に近い?
- 「具体的に何をやるの?」が出ない
- ・+バックとした方向性と両方

前のギョウ引き継ぎ(具体)

これから必要な方向性

論点(これからどうする?)

- グループ討論 → 全体?
- 2部構成? (1日で完結するのでは?)
- ◎ 他のもフォーラム等との連携は?
- ◎ 提言(今回のTOP5)を景として
(どう受けとめるか? (等)
(どう活かしていく?))
- ◎ 提言まで持っていくか否か?
→ 課題共有でもいい?
- ◎ 毎回新しいテーマ? テマは変わる?
- ◎ 運営委員会メンバーの今後

(夏) マナーライフフォーラム ←
↓ 課題提案
(2月) 2月になんフォーラム (← 事業は春から)
新に提案(マナー等)

- 今回の結果 → 審議会に報告
- TOP5はマナーライフにも記載されている。ゆりかご木田など
「モデル地区」 → 実際見本人少
- ・ 順位も大切!
- ・ 出してきた提言をどう受けとめるかは検討必要

- 各地のフォーラムを「びわ湖の為に」
をテーマにしては。
← より多くの人に届けてもらって。
共通の目標を持つつながる

・マザーレイクのことをもっと
知ってもらおう
~~取り組み~~ → **目標**
皆々238

「まなびワ」のジョイント

AM: まなびワモックオフ

@船上

↓案内

PM: マザーレイクフォーラム

地産地消
イベントとの
連携

megumi
50k55000
(100k120000)

4月 ○

5月 ○

6月 ○

7月 ○

8月 ○

9月上旬 MLF

会場予約

広報

運営費

- ・10月頃の目標
- ・テーマ・旗
- ・他とのつながり
- ・プログラム
- ・日程・会場

段取り

5/14 16, 18, 17

5/21 25, 24, 24, 23

22

- ・一般の人にどう関わってもらう?
↓
今やっている人にとにかく集まってもらう?
- ・参加形態を迷わないか?
- ・市町との連携 / 指標(学術)

- 以上 -